

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 76 号

スポーツ施設従業員における職業性ストレスとメンタルヘルスに関する研究
:事務職と指導職の比較から

(Job stress and mental health among sports facility workers in Japan
:Through comparison of office staff and instructor staff)

朴明姫 (ぱくみよんひ)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

近年、職務ストレスが深刻化しているなか、日本のスポーツ施設従業員における職種の違い(事務職と指導職)に着目したメンタルヘルスに関する研究はほとんどない。本研究の特徴は職務ストレスチェック制度で用いられている「新職業性ストレス簡易調査票」を使用した研究デザインであり、スポーツ施設従業員のメンタルヘルスを科学的にアプローチした点に独創性を見出せる。

【研究方法の妥当性】

本研究では、2つの仮説を立て研究目的を検証した。質問紙調査に際しては、インフォームドコンセントを得たうえで、適切なサンプル数(488名)を確保して、記入漏れのない有効回答(378)を分析対象とした。統計処理は交絡要因を把握して共変量として投入するなど、適切かつ妥当な方法で統計分析を行った。

【結果・知見の新しさ】

スポーツ施設従業員を職務によって事務職と指導職に分け、2つのサンプルの同質性を χ^2 乗検定にて確認し、サンプル間の平均の比較をt検定、職務ストレスと精神的健康度の関連を調べるため重回帰分析を行った。結果を分かりやすく図表にして提示した。結果として、スポーツ施設従業員の職務と職業性ストレスおよび精神的健康度との関連性が明らかになり、職務と関係なく適正と雇用不安がメンタルヘルスに有意な関連を示し、非正社員の増加による問題を解明した新しい知見が得られた研究である。

【考察および結論の妥当性】

仮説を検証するために、精神的健康職務に関連する職務ストレス要因と関係なく生じた要因に区分して考察した。職務ストレス要因の中では、事務職のストレス要因と指導職のストレス要因が異なることや、最近の労働環境との関連性も考察した。結論としては、スポーツ施設従業員の精神的健康度を維持・改善するには、職種別のきめ細かいストレスマネジメントが必要であること、雇用のミスマッチを防ぐために、スポーツ施設への就職の前後でのキャリア(働き方)教育の必要性が示唆された。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究は、職務ストレスが深刻な中、スポーツ施設従業員のメンタルヘルス向上のための現状把握と具体的な提案を試みた研究であり、スポーツ健康科学分野に位置づけられる有意義な研究である。

【質疑に対する応答の適切性】

質問に対する応答は、研究結果と先行研究による裏付けを明示しながらできていた。研究の背景から結論に至るまで、主査と副査からの論文の内容に関する質問に対して、誠実かつ適切に応答していた。

【論文審査の結果】

当該論文は、最近の労働現場で問題となっている職業性ストレスを取り上げ、スポーツ施設従業員を対象にした調査を実施して、その結果に基づいて問題解決の方向性を提示した非常に有意義な研究である。ストレスチェック制度が実施されてからスポーツ施設従業員を対象にした初めての調査報告でもある。適切な統計分析方法で仮説が検証されており、考察も先行研究との比較を通じた妥当な結論が導かれている。よって、博士（スポーツ健康科学）の学位を授与する水準に相応しいと判断される。